

様々な要因を抱えた患者に多職種で介入したことで食事摂取量が回復した症例

○磯部香月¹⁾ 奥村和佳子¹⁾ 井高祐希²⁾ 中谷理恵⁴⁾ 田矢理子²⁾ 前川純一³⁾

三重北医療センター菰野厚生病院 1.看護部 2.リハビリテーション科 3.薬剤部
鈴鹿厚生病院 4.栄養科

【はじめに】 我々は様々な要因を抱えた患者に多職種で介入したことで、食事量の回復につながった1例を経験したので報告する。

【症例】 90歳代女性 診断名：左脳梗塞。入院時体重 50.7 kg、サルコペニア：有、入院前は常食摂取可能。

【経過】

構音障害・意識レベル低下あり急性脳梗塞を認め入院となった。Day. 2より軟飯食・水分薄いトロミ開始。四肢麻痺はなく Day. 15よりリハビリテーション（以下リハビリ）開始。Day. 24に回復期リハビリ病棟へ転棟した。食事摂取量が400kcalと少なく、入院時より体重が減少している状態だった。そのため、NST介入を開始し①適切な量の栄養が摂取できる。②体重増加を目標とした。管理栄養士は嗜好の聞き取り、医師と薬剤師は薬剤の検討、看護師は食事介助の工夫や家族に間食の持ち込みを依頼、作業療法士は食事環境の変更を実施した。それら様々な介入を行ったことで、食事はほぼ全量1500kcal摂取可能となり、体重も増加した。リハビリでもADLが改善。Day. 95に施設へ退院となった。

【考察】

高齢者の食事摂取量が低下する要因として、疾患による摂食、嚥下障害だけでなく、加齢による運動量の低下や食欲低下、嗜好品の偏重や便秘など多方面の問題がある。本症例も様々な角度から他職種で患者へ介入することにより、食事摂取量の改善につながったと考えられる。